

むかしアーチ、いま団旗 時代が変わっても

三丘生は体育祭でアツくなる！

体育祭のルーツ、堺中祭

今日の体育祭のルーツと言えるのは「堺中祭」だ。

旧制堺中学校時代には陸上競技小会が春季(6月)、秋季(10月)の二期、2〜3日にわたって実施され、1000、2000、4000mなどの各競走やリレー、幅跳びや槍投げ、円盤投げなどの記録を競った。昭和初年には全校生徒参加の競技会も実施された。

だが、「堺中祭」はこれらとは一線を画する。中身は音楽・演劇・展覧会から成る芸術祭と体育大会とで構成されたもので、1946(昭和21)年に開かれた第1回は2日間、翌年の第2回は4日間にわたって繰り広げられた。「祭だ祭だ堺中祭だ 輝く六稜 我等のシンボル 光は丘から 三國ヶ丘から 祭だ祭だ祭だ祭だ 祭だ祭だ祭だ祭だ 光の祭だ」という「堺中祭の歌」(安西冬衛 17期 作詞)が作られたほどで、まさに戦争に翻弄された暗い時代からの解放感にあふれたものだった。

「堺中行事の中、最も盛大に行われる堺中祭は、昨年も第二回堺中祭と銘打って花々しく展開された演劇、展覧会の準備のために、悲壮にしかつ雄大な決意をもって徹夜を敢行したものの幾組ぞ」(昭和23年1月15日堺中新聞)というから熱中ぶりが想像される。

1948(昭和23)年9月には男女共学がスタート。堺中祭も前年の第2回が最後となったが、以後の体育祭・文化祭へと発展していく。



堺中祭の仮装行列

新制高校第1回の文化祭・体育祭は1948(昭和23)年の11月6日〜8日、3日間にわたって開かれた。堺中祭の型式を踏襲したものだ。ただし、この方式は第2回までで、第3回は文化祭を7月に、

※1 参加章の手ぬぐい 1955(昭和30)年の60周年記念体育祭で記念品として手ぬぐいが配布された。以後毎年デザインを生徒から募集して製作。1990(平成2)年は手ぬぐいではなく学年色のミニタオルで、これが最後となった。(28ページも参照)

※2 オリンピックの影響 1964(昭和39)年のプログラムには東京五輪音頭の歌詞が掲載され、種目名に「オリンピック音頭」が見える。また、この年から開会式でファンファーレ、君が代斉唱が始まったが、1969(昭和44)年・第22回で「君が代斉唱拒否」のピラがまかれ、一部の生徒は斉唱拒否。その後、校歌斉唱だけになった。また、入場行進にはオリンピックマーチが長く使われ「聖火リレー」が行われた年もあった。

※3 ハッピーの流行 1970年代半ば〜1980年代半ば(昭和50年代〜60年代)、そろいのハッピーを手作りして着るのが流行した。赤やピンク、紫、緑など色とりどりのハッピーを着てアーチの下に陣取る様子は百花繚乱の趣であったという。

大きく変わった体育祭 校舎改築工事が終わり、母校に戻ってきた1996(平成8)年の体育祭は、初めて「縦割り」のチーム対抗となる。それまでも、応援合戦やアーチの制作においてはどうしても経験がものをいうことから、縦割りチームを提案する声はあった(昭和50年12月24日三國丘高新聞など)。この年は5団、1997(平成9)年(2003(平成15)年は3団、2004(平成16)年から4団となった。色も何度か変わったが、現在は青・赤・黄黒の4団。競技や応援合戦で各団のよりどころとなるのが縦120cm・横170cmの「団旗」だ。裏表に独自のデザインが施され、成績は団旗の部・応援合戦の部・総合で競われる。数々の名作も生まれたアーチを懐かしみ、なくなったことを惜しむ声は多いが、現在、アーチの代わりを務めているのが団旗だといえよう。ともあれ、昭和校舎から現在の校舎になったとき、体育祭も大きく変化したのである。



1956(昭和31)年のアーチ

「体育祭の思い出」といえば「アーチ」をあげる人が多い。最初の本格的なアーチの登場は1954(昭和29)年の第4回と思われる。初期は文字通りアーチの形であったが、1959(昭和34)年からは応援席(スタンド)と合体した「スタンド・アーチ」となる。

校舎建て替え工事で

校舎改築工事の開始を翌年に控えた1991(平成3)年、生徒会執行部が「今年もアーチを残すべきかどうか」とのアンケートを実施、僅差で残すことになったものの3年のみがアーチを作り、他の学年は学年色を掲示するだけとなった。そしてこれが最後のアーチとなる。翌年から新校舎建設、次いで旧校舎撤去工事が始まり、1992(平成4)年(1995(平成7)年の4年間は、体育祭は大仙公園で行われることになった。母校を離れての体育祭はやはり、あまり盛り上がりなかつたようだ。1996(平成8)年発行「茅渚の海」によると、1995(平成7)年の第48回は、応援団が「3学年とも成立しない」という事態から、平面的な巨大絵画が中心となっていく。



が予想されたが、体育祭1週間前になって3年生の応援団が結成され」という状況。翌年、5年ぶりに母校での開催となり、アーチの復活も期待されたが、結局かなわなかった。

大きく変わった体育祭

校舎改築工事が終わり、母校に戻ってきた1996(平成8)年の体育祭は、初めて「縦割り」のチーム対抗となる。それまでも、応援合戦やアーチの制作においてはどうしても経験がものをいうことから、縦割りチームを提案する声はあった(昭和50年12月24日三國丘高新聞など)。この年は5団、1997(平成9)年(2003(平成15)年は3団、2004(平成16)年から4団となった。色も何度か変わったが、現在は青・赤・黄黒の4団。競技や応援合戦で各団のよりどころとなるのが縦120cm・横170cmの「団旗」だ。裏表に独自のデザインが施され、成績は団旗の部・応援合戦の部・総合で競われる。数々の名作も生まれたアーチを懐かしみ、なくなったことを惜しむ声は多いが、現在、アーチの代わりを務めているのが団旗だといえよう。ともあれ、昭和校舎から現在の校舎になったとき、体育祭も大きく変化したのである。

Table with columns for year, school type, and event details. It lists events from 1946 to 2019, including '堺中祭', '文化祭', '体育祭', and '縦割りの団対抗'.



応援団 (2015年)



綱引き (2017年)



応援合戦 (1983年)



棒倒し (1959年)



仮装行列 (1958年、後列右端に山本初枝先生)



師弟トナカイリレー (1966年)

競技の変遷

初期のプログラムを見ると今では「？」と思える競技も多い。ロマン競走、停電競走、足と銀輪、名作アベック競走、ラムネ呑み、PTA煙草吸競走等々(いずれも第3回)。また、第12回頃までは、競技数が40近く、一大レクリエーション大会の様相だ。「汽車ポッポ」始業5分前「自転車おそのり競走」「計算競走」「魚釣り競走」：一体どんな競技だったのだろう。

仮装行列(仮装コンクール)は第3回のプログラムに見られる。以後、1976(昭和51)年の第29回まではあったことが確認でき、毎年人気を集めた。

初期は大会中に競技の1つとして「マラソン」が行われていた。1967(昭和42)年の第20回までは行われていたことが確認できる。

師弟トナカイリレーは1957(昭和32)年の第10回に初出。以後、毎回終盤を盛り上げる人気種目となったが、2002(平成14)年を最後に行われなくなった(1996

年は中止)。

比較的新しい競技として、1989(平成元年)の第42回大会に初めて「うず潮リレー」(台風の目)が登場。以後、ほぼ毎年のように行われ、現在に至る。また、第38回には「なわとび」が登場、その後「みんなでジャンプ」「長縄跳び」「大縄跳び」と名を変えながら現在まで続いている。

女子の騎馬戦も一時期、行われていた。確認できるのは1983(昭和58)年～1984(昭和59)年、1987(昭和62)年～1989(平成元年)年。

先生も参加した仮装行列

▼憧れの三丘生になった最初の体育祭。仮装行列「人間の一生」で、青春を爆発させました。まず、小学生、中学生、高校生、社会人となり結婚、そして赤ちゃんが生まれ、働き盛り、おじさん、おばさん時代を経て、やがて死にいたるまでを表現しました。圧巻は、風船をもって赤ちゃんに扮している故山本初枝先生。乳母車に乗ってトラックを一周、やんやの喝采を浴びました。先生のその笑顔の可愛らしかったこと、今も脳裏に焼き付いています。(高13回)

▼3年生の時の仮装行列は、隣のクラスに相談を持ちかけて2クラス合同での仮装行列を実現。バイキングの船を造るのに、リヤカーが必要だということで、貸し出してもらえたのはいいが、はるばる北野田から学校まで2台のリヤカーを歩いて運

人気だった師弟トナカイリレー

▼私の学年は、新校舎の建替時期

んだ。何人かで交替しながらだけれど、終わった後はまた返しに行くわけだから大変だった。(高21回)

▼2年生の時は、7組保木ホームで「世界文学の中の恋人たち？」を出した。一人がテーマのプラカードを持って前を歩き、吹奏楽部に属しているものが景気づけにドンチャカやるなか、ロメオとジュリエット、ロッセとウエルテル、貫一・お宮、ピンカートンと蝶々夫人等が行進。男子が女性に、女子が男性に扮するのが一ひねりした愛嬌だったが、一組だけ女子同士、一組は男女交替無しだったようだ。(高19回)

クラブ対抗リレーで盛り上がった

▼在学時にはクラブ対抗リレーなるものがあり、例えば野球部はバット、サッカー部ならサッカーボール、と所属クラブの道具をバトン代わりにリレーを行っていた。水泳部の我々は浮き具を用いた記憶がある。が、注力していたのは入場時の部活アピールタイムかもしれない。突然ジャージを脱ぎ捨て、海パン一丁でシンクローのダンスを踊る野郎ど

優勝の行方にも大きく影響する応援合戦は体育祭のハイライト。学年対抗で競った時代、3年生が優勝することが多かったが、ときに思わぬ「下克上」も起こった。敗れた上級生たちは後々まで悔しさを忘れなかったとか。

応援団やりました!

▼68期赤団団長を務めました! 僕にとつて確実に人生の転機でした。学年も部活も違うみんなをまとめるのは本当に苦

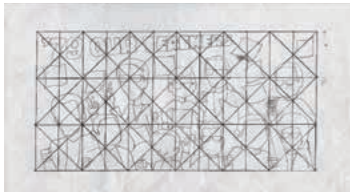
▼体育祭の思い出でやはり印象に残っているのはアーチの制作です。1年生の時は1面でモチーフもアニメからの引用でしたが、2年生、3年生の時はオリジナルデザインで、2枚のペニヤ板を蝶番で固定し、状況に応じて2面を場面転換できるようにしました。3年生の時は10クラスの担任の先生の似顔絵と源義経(源平合戦)をモチーフにしたデザインで、例えば師弟トナカイリレー

の時は先生の似顔絵、応援合戦の時は源義経というふうに演出しました。原画の作成から、下絵、着色、下地の組立て、パネルの取付けまで、夏休みから9月下旬の本番に向けてアーチ制作委員のメンバーで取り組んだことが懐かしいです。(高32回)

アーチはこうやって作った



原画 (各クラス担任の似顔)



パネル割と下絵のためのアウトライン



ペンキで着色



下地の組み立て



パネルの取り付け (完成形は表紙参照!)

の時は先生の似顔絵、応援合戦の時は源義経というふうに演出しました。原画の作成から、下絵、着色、下地の組立て、パネルの取付けまで、夏休みから9月下旬の本番に向けてアーチ制作委員のメンバーで取り組んだことが懐かしいです。(高32回)

下克上もあった!

▼31回生にとつて一番の思い出は1年時に学年対抗戦で上級生の30回生に勝ったことです。三国丘体育祭

史上初めて下克上を起こしたそうです。2年生となった翌年は30回の先輩方とお互いが「優勝する!」という意気込みから、険悪なムードが漂いました。応援合戦は本番まで非公開の秘密練習。優勝はできませんでしたが、応援合戦の採点等に疑問があり、負けを認めていない残党が今でもいます。「何にでも真剣に取り組む立派な三丘生!」を体育祭の場で感じました。(高31回)



第12回体育祭 (1959年) ポスター

▼2年生のときの入場行進。われわれの学年だけ、学年色(赤)の小さなハンカチくらいの布きれをひそかに隠し持ち、本部席にさしかかったところで一斉に掲げた。「おおっ」という声と、笑い声とが起った。(高22回)

エトセトラ

▼2年生のとき(だと思っ) マラソンに出場した。男子のみで、各クラスの代表が3学年一緒に走った。

▼友人のお姉さんから聞いていた、ファイヤーストームと和歌山までのウォーキングレースをとてもしみにしていました。ところが入学すると、体育祭のあと応援舞台を焼くファイヤーストームは消防の問題でなくなったり、国道26号線の交通量が多くなったとの理由で、ウォーキングレースも私達の学年からなくなりました。(高16回)

三拍子、三三七拍子の動きは「空手」の基本動作を取り入れたかっこいい振り付けでした。エールの切り方も徹底的にご指導いただきました。そのおかげで、今でもしっかりと演じることが出来ます。(高28回)

▼副団長と太鼓を務め、一生懸命声援を送った。以来、大学時代は教授の退官パーティー、会社員の時は、上司の本帰国の送別会や自身のベルギー赴任中、独立後はコンサル先でもエールをきるようになった。特に外人相手では、驚きとともにとても喜んでもらった。(高36回)

もの姿を覚えている人は果たしてどれ程いるのだろうか。(高63回・水泳部)

▼体にペイントをして走る水泳部、バク転でゴールを目指す体操部、防具を着け竹刀を振る剣道部など、クラブ対抗リレーでは各部が工夫を凝らして走る姿に盛り上がりました。3年生の時は校舎建て替え工事で校庭が使えなかったため、大仙公園で開催されました。(高46回)